授業評価アンケートにみる評価と課題
－教養教育科目「ことばと社会」の授業改善に向けて－

塩川奈々美
（高等教育研究センター）

１．はじめに

教養教育科目として開講する「ことばと社会」の授業について、2021 年前期から現在に至るまで計 3 学期の実施期間を経た。本講義は全 15 回の授業のうち、初めの 10 回において日本語学・方言学の基礎的な知識に触れ、後半 5 回を利用して言語地図と呼ばれる方言研究の資料を作成し、期末レポートにおいてこれを解釈するという内容である。前期・後期の違いによって受講生数に偏りはあるものの、3 学期間の累計で 138 名の学生が履修した。

本発表では、各学期において実施された受講生による授業評価アンケートの回答や自由記述を整理し、本講義において評価された授業の特徴を整理するとともに、指摘された改善点を整理することで今後の授業の課題や展望について述べる。

２．分析対象となるデータ

本発表で使用するデータは、徳島大学教養教育院が学期末に実施する「授業評価アンケート（期末調査）」である。令和 3 年前期・令和 3 年後期・令和 4 年後期の 3 学期分を分析対象とする（表1）。

設問は「学生自身の受講態度」（Q1）や「教員の授業への創意工夫」（Q6）等から構成される。令和 3 年前期の 21 問（うち自由記述 4 問）を基本とし、学期間の相違点として、令和 3 年後期は授業担当者による独自設問 5 問を追加し 26 問、令和 4 年前期は令和 3 年度後期設問に新たに教養教育院の統一設問 5 問が追加され 31 問となり、令和 4 年度より選択肢問題が五件法（そうである、どちらかというとそうである、どちらともいえない、どちらかというとそうではない、そうではない）から四件法（とても当てはまる、どちらかといえば当てはまる、どちらかといえば当てはまらない、当てはまらない）に変更されている。分析の都合上、令和 3 年度に採用された 5 件法の選択肢に合わせ令和 4 年度の回答を整理した。

表１　「ことばと社会」授業評価アンケートの回答者数及び回収率

学期	受講生数	回答者数	回収率	自由記述件数			
				良かった点	改善点	遠隔授業の良かった点	遠隔授業の改善点
令和3年前期	64	59	92.2%	37	29	26	25
令和3年後期	14	9	64.3%	3	2	2	2
令和4年前期	60	45	75.0%	21	11	12	16

３．集計結果及び考察

まず、選択肢問題の 10 項目のうち、「授業の総合的な評価」（Q9）について、89%～100%の肯定的な評価を得た。否定的な意見が 11%となった令和 4 年度前期については、作図課題としたテーマ（彼岸花）が令和 3 年度の課題（麦粒腫）よりも難易度が高かったことが遠因となっている可能性がある。全学期において肯定的な意見が 9 割以上であった項目には、「目的の明示」（Q3）、「目的等の実施」（Q4）、「理解度への配慮」（Q5）、「授業の創意工夫」（Q6）、「双方向性」（Q8）が挙げられる。一方、「今後に活かせる知見」（Q7）や「授業の環境・設備」（Q10）においては「どちらともいえない」～「そうではない」とする意見が 10%～20%程度の割合を占めており、本講義における課題が指摘された形である。

自由記述項目においては、授業の良かった点（61 件）として「教員の親しみやすさ」「質問への対応・フィードバックへの丁寧さ」「他の受講生の意見を聞くことができる点」「パソコンや

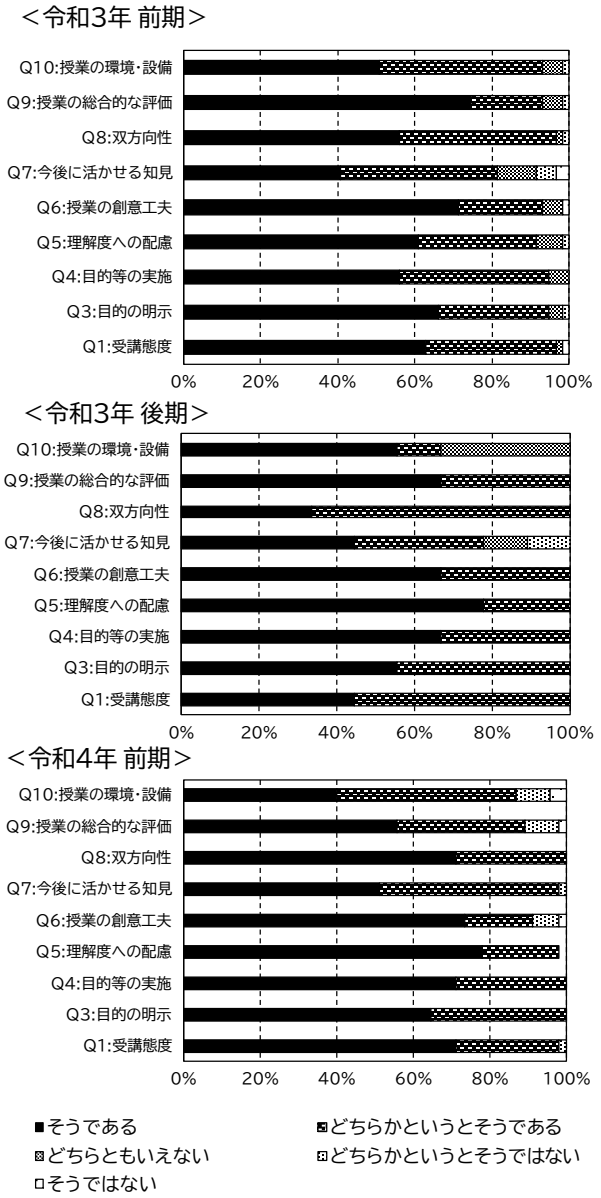

図１　授業評価アンケート結果

Office系ソフトの使い方について習得することができる点」「授業内容が面白い点」「オンラインで授業が受けられる点」「グループワークの時間がある点」が挙げられた。本講義では、各回のテーマに応じて一方向的な知識伝達型の講義を行いつつ、合間に受講生の興味を喚起するための個人/グループワークの実施やZoomの機能（注釈、ブレイクアウトルーム）を利用した双方向的な授業の実施に取り組んでいるほか、前回授業の感想をmanaba に提出させ、次回授業冒頭にてフィードバックを行っており、授業時間外の質問対応も受け付けている。こうした学生参加型、教員・学生または学生同士の双方向的な授業の取組が評価された形であろう。Office 系ソフトについても、ソフトの使い方習得を目的とするのではなく、これらを活用して言語地図作成を目指すことでより実践的に使用することができ、結果としてスキル習得に繋がっているものとみられる。

一方、改善点（「特になし」等無効回答 22 件を除いた 20 件）に関する記述を整理すると、全学期共通で指摘が多かったのは「インターネット回線の悪さ・音声の途切れ」に関する指摘であり、11 件に上った。そのほかの指摘としては「説明方法や内容に関する要望」（詳しく、丁寧に、ゆっくりなど）が 4 件、「授業時間の管理徹底」が 3 件、「効率的な作業方法」を知りたいとする意見が 2 件となった。最も指摘があった「インターネット回線の悪さ・音声の途切れ」については、Wi-Fi 環境の不安定さとイヤホンマイクに無線のものを使用していることが影響している。学生とのコミュニケーションの観点から割り当てられた教室で授業を実施しているが、今後、インターネット回線の有線接続の環境を整える必要があるだろう。イヤホンマイクに関しては、現在有線のものに変更済みであるため、問題は解消されているものとみられる。このほか、「授業時間の管理徹底」については授業の実施方法や内容を見直し、改善を行った。そのため、令和 3 年度後期・令和 4 年度前期においてはこの指摘はなされていない。

４．まとめと今後の展望

学生による授業評価アンケートの結果から、授業の実施方法について概ね肯定的な評価が得られていることが明らかとなった。コロナウイルス感染症対策の一環として同期型のオンライン授業をメインに行ってきたが、その中でも学生との双方向性を保つことによって、授業内容への興味関心を引き出したり、スキルの習得に繋げたりすることが出来ているようである。

今後は、全学期を通じて指摘されている授業環境の整備について取り組む必要があるだろう。コミュニケーション面が評価されていることも踏まえると、対面実施も視野に入れつつ、授業改善に取り組みたい。